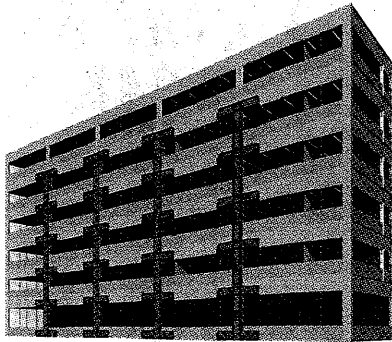


耐震補強の「J—TREE工法」

「性能証明」取得、本格販売

ブレース工法に比べ コスト・工期を最大半減

JFEシビル(社長・藤井善英氏)は耐震補強工法「J—TREE工法」の建築技術性能証明を日本建築総合試験所から取得、今月から本格販売を開始した。ブレースを用いない鋼製柱による外付け耐震・制振補強工法で、従来のブレース工法に比べコスト・工期を最大半減できる。今後、耐震化の促進が見込まれる事務所ビルや集合住宅向けに、年間10件以上の採用を目指していく方針。



耐震補強「J—TREE工法」の施工イメージ

従来のブレース耐震建築物の使用性や採光、補強工法は斜材による美観などの低下が特に集合住宅や事務所ビルなどで指摘されていた。本工法は鋼製柱による外付けのブレース工法で、既存RC造及びS造の建築物の外側に鋼製柱で補強を加え制振補強も

構成される補強部材を取り付け、耐震補強架構を構築。美観や使用時の利便性を損なわずに補強が可能となった。鋼製柱はJFEスチールの圧延H形鋼またはビルトH形鋼で構成。既存架構外側の柱梁接合部・梁部分のみで接合する間接接合で、既存RC造及びS造の建築物の外側に鋼製柱を組み合わせ、鋼製柱に同社の「制振間柱」を組み込むことで強度・靱性に補強を加え制振補強も

実現できる。同社はJFEグループのデバイス製品を一元的に扱っており耐震補強工法メニューの多様化によりユーザーの選択の幅を広げた。

13年度の改正耐震改

修促進法の施行で病院や店舗、旅館、学校など不特定多数が利用する大規模な旧耐震基準建物の耐震診断と結果報告が今年末を期限に義務付けられている。来年度以降はこの結果に基づき耐震改修需要が顕在化すると思われる、同社ではこうした需要を捕捉し、既存の耐震デバイス製品を含め耐震改修市場で販路を進めていく方針。